

和歌山県庁文化国際課メールマガジン★NO.16★

「一目百万、香り十里」と称される和歌山県南部梅林で、梅花が満開を迎えたところで、花の余韻がまだ続いています。県内各地で桜がつぼみをふくらませつつ、間もなく花びらの舞い踊る季節がやってきます。

百花爛漫と咲くとともに、文化国際課メルマガも皆さんに春の楽しみをお届けできれば幸いに思います。

さて、今号も和歌山県と世界各国との交流報告や異文化紹介など、充実した内容となっています。どうぞ、ゆっくりお楽しみ下さい。

■ 文化国際課だより ■

December フルネイ青少年来県報告

昨年12月2日から8日にかけて、和歌山県が交流を続けているブルネイのヤヤサン高校から6名の学生と2名の引率者が来県しました。

一行はまず、交流のきっかけをつくった元駐ブルネイ日本国大使である仁坂吉伸和歌山県知事を表敬訪問しました。気候の違いから体調を心配した知事に対し、学生は、「寒いけれど、ブルネイではできない経験を楽しんでいる」と答えるなど、初めての日本・和歌山をとっても楽しみにしていたことを伝えました。



知事との記念撮影

その後は、“和歌山の産業を学ぶ”“世界遺産に触れる”をテーマに、県内各地を訪れました。伝統産業を学ぶため訪れた紀州漆器伝統産業会館では、蒔絵体験をし、それぞれのデザインの作品を完成させました。紀南に移動後は、熊野古道を歩いたり、那智の滝を見学したりと、世界遺産の魅力にも触れ、その壮大さに感動していました。

後半は、慶風高校との交流プログラムを行い、ホームステイを経験しました。また、交流事業でブルネイを訪れたことのある和歌山の青少年との再会・交流の場も設けられました。



蒔絵体験の作品と一緒に

プログラムを終えた学生達は、「和歌山には古い歴史があり、ブルネイとは異なる文化を感じることができ、興味深かった。」

「宗教も食べ物もブルネイとは全く違うので、1週間でもとても貴重な経験ができ、日本が大好きになりました。」

などの感想を述べてくれました。

今後も、青少年交流を通じ、ブルネイとの友好関係を大切に育んでいきたいと思えます。



March スペインガリシア州を訪問して

2015年3月7日～14日、16歳から25歳までの男女15名による第6回和歌山県青少年交流代表団がスペインのガリシア州を訪れ、交流を行いました。

1998年に和歌山県の「熊野古道」とガリシア州の「サンティアゴの巡礼道」が“姉妹道”として提携を行ったことから、現在まで様々な分野においての交流が行われています。

ヨーロッパの中でも最も歴史がある大学の一つであるサンティアゴ・デ・コンポステーラ大学では、地理歴史学部の学生たちを前に、和歌山に関するプレゼンテーションを英語で行い、その後はグループに分かれ音楽、都市の生活、伝統的なスポーツなどのテーマについて語り合い、交流を深めました。

また、晴天の下、「サンティアゴ巡礼道」を歩き、そのシンボルマークであるホタテ貝の標識を目にしながらかつ1時間半ほど散策しました。道中、長い道のりを歩いてきた巡礼者が初めて大聖堂を望むことができ、喜びの声を上げると言われる「歓喜の丘」を訪れ、巡礼者の思いに想像を巡らしました。



世界遺産：ヘラクレスの塔

ガリシア州からの訪問団は、今年8月に来県する予定です。両州県の交流がますます活発かつ有意義なものになるよう努めていきたいと思ひます。



クイズ! 海外豆知識!

Q. ヨーグルトの発祥の地はどこ国でしょう?

- ① 中国 ② ブルガリア ③ ブルネイ ④ トルコ



March 中国山東省文物局訪問団来県

3月18日から19日にかけて、友好都市である中国山東省から文物局訪問団5名がお見えになりました。今回の訪問目的は、和歌山県の文化遺産の保護や修復技術について勉強するとともに、今後の和歌山県との文化分野での交流について協議することでした。

訪問団は18日午後に来県し、津井宏之企画部国際担当参事や楠義隆教育委員会生涯学習局長を表敬訪問した後、文化遺産課の職員から「和歌山県における文化財建造物の保護」の説明を受けました。訪問団の方々は和歌山県が文化財建造物保護の調査、指定をすでに1960年代から始めていたことに、驚いていました。その後、県立博物館を見学し、和歌山県の文化財の保存方法などについて勉強しました。



県庁表敬訪問

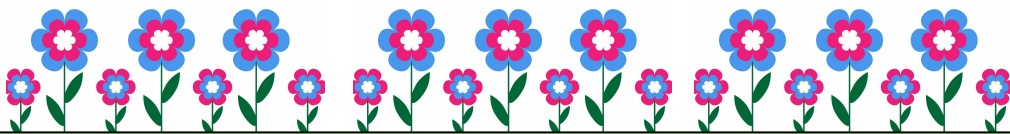
一行は、翌日、海南市にある重要文化財の温山荘園を訪れました。小雨の中、100年前にニッタ創業者である新田長次郎氏の庭園としてつくられた日本最大の個人庭園を見学し、文化財センターの職員から、庭園の修復工事などについて説明を受けました。庭園の美し



温山荘園の浜座敷にて

さや、日本の文化財建造物の修復技術の素晴らしさに、訪問団から絶賛や驚嘆の声が絶えませんでした。

和歌山県は国宝の数が全国第6位、重要文化財指定件数は全国第7位を誇っており、一方、山東省も孔子の出身地として文化資源が世界的に有名です。両省県がこれまでの友好交流を踏まえ、今後は文化の分野においても交流が活発化することを期待しています。



和歌山県文化国際課ホームページから読者登録ができます

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022100/kokusaikouryu/mailmagazine/mailmagazine.html>

国際交流や海外にご興味をお持ちのご友人やお知り合いの方が
いらっしゃいましたら、
ぜひぜひ本メルマガをご案内して下さい。

■ 異文化紹介 1 ■

ホームステイを経験して

和歌山県は全国有数の移住母県であり、和歌山県の国際交流の源流を成しています。移住先での県人会は、アメリカ、カナダ、ブラジル、メキシコ、中国など世界中に広がっています。

和歌山県は、和歌山県人会子弟を県内の一般家庭に受け入れ、生活を通じて日本の風俗・習慣を理解してもらうとともに、帰国後は、日本の青少年との継続的な交流を通じて将来にわたって県人会活動の維持・発展に資することを目的に、県人会子弟の受入を行っていま



お餅をつく利生さん

す。夏は南加和歌山県人会から子弟が2名、冬にもブラジルから1名とペルー、メキシコ、パラグアイ、アルゼンチンにある和歌山県人会のうちの1つから子弟1名の計2名が和歌山県を訪問し、交流が続いています。

今年は1月17日～2月7日の日程で、ブラジル和歌山県人会から高橋納屋 建蔵^{けんぞう}マルセロさん（16歳、高校生）、メキシコ和歌山県人会から寺本イダ アルトゥーロ^{としお}利生さん（22歳、大学生）が来県しました。

今回私はホストファミリーとして1月26日～31日の期間、利生さんを受け入れ、仕事とは異なる形の“国際交流”を体験しました。彼は「食文化」についてメキシコの大学で学ぶ学生で、和歌山の“食”について卒業論文を書くという目的と、将来は、メキシコで近年問題になっている、肥満を減らし健康的な食を広めたい、という夢を持って来県しました。ちらし寿司や巻き寿司、天ぷら、しゃぶしゃぶなどの日本食のほか、梅バーガー、梅ドリンク、和歌山ラーメンなど和歌山ならではの食と一緒に楽しみました。

彼には本格的なメキシコ伝統食で、お祝いの時に作る“タマル”を一から教えてもらいました。メキシコ料理と言えば、辛いチリ（唐辛子）を使った料理や、トウモロコシの粉をこねて焼いたトルティージャが有名ですが、チリにも沢山の種類があり、今回はそれらの中から数種類を選び、調合して絶妙な味に仕上げていました。スープも鶏のガラや何種類もの野菜をいれて煮込み、完成までに数時間を要しました。メキシコでは一家総出、時には親戚も集まって1日かかりで作り、食べるそうです。

こうした交流を通して、メキシコの食の豊かさの一端に触れることができ、またその一方で、和歌山は独自の“食文化”の魅力を持つ県であることを再認識しました。（国際交流員 スペイン語担当 中村貴子）



トウモロコシの皮に包まれたタマル

■ 異文化紹介 2 ■

イースターについて

だんだん暖かくなってくるこの季節、日本にもお花見など春を告げるイベントはたくさんありますが、今回は、欧米などキリスト教文化圏の国々の春に欠かせないお祭り、イースターを紹介したいと思います。

イースターは、十字架で処刑されたキリストが死後 3 日目に復活を遂げたことを祝うお祭りで、復活祭とも呼ばれています。

イースターの日は「春分の日の後の最初の満月の次の日曜日」と決められており、毎年日付が変わります。西方教会の場合、3月下旬から4月下旬の間の日曜日とその日にあたり、今年のイースターは4月5日です。グッド・フライデーと呼ばれるイースター前の金曜日から翌週月曜日までの4日間を休暇とする国もあります。

キリストが処刑された日にあたるグッド・フライデーになると、各教会でキリストの受難と死を追悼する礼拝が行われます。そして、復活の日である日曜日のイースターには、家族などが集まってごちそうを食べて祝います。



こうしたごちそうに登場するのはもちろんのこと、イースターのなかで重要な役割を果たすのが卵です。イースターの時期になると、卵の殻に鮮やかな色で装飾を施す慣わしがあります。これをイースター・エッグといい、部屋や店先に飾ったり、大切な人同士で贈り合ったりします。本物の卵の代わりに、卵のかたちをしたチョコレートなどのお菓子のイースター・エッグを用いるのもポピュラーです。また、子供向けには、イースター・エッグを隠して探す遊び（エッグ・ハント）や、転がして競うゲーム（エッグ・ロール）も行われます。アメリカでは、毎年ホワイトハウスで開催されるエッグ・ロールが有名です。

このように、イースターに卵が使われるのは、卵が古くから生命の象徴と考えられており、キリストが死から蘇ることを、雛が卵から産まれることに例えているからだといわれています。また、多産であることから豊穡を象徴するウサギも、卵と合わせてイースターのシンボルとして使われています。

ちなみに、モアイ像で有名なイースター島の名前は、オランダの提督がこの島を発見した日がちょうどイースターの日だったことから、名づけられたものです。

イースターは、日本ではまだあまり浸透していませんが、キリスト教においてはクリスマスと並んで最も重要なお祭りの一つです。クリスマスに“Merry Christmas!”とあいさつを交わすキリスト教の国のお友達がいらっしゃる方は、この時期には“Happy Easter!”と声をかけてあげると、喜んでもらえるかもしれませんね。



■ お知らせ ■

「ブルネイ・異文化体験と青少年交流2015」参加者募集！

1. 目的

日本とは異なるイスラム文化を持つブルネイを訪問し、現地の学生との交流やホームステイなどを通して、異なる互いの文化を学び理解します。またブルネイに住む日本人との懇談などを通し、日本と海外との関わりを学びます。

2. 主催：和歌山県

3. 派遣先：ブルネイ・ダルサラーム国



4. 実施期間：平成27年8月7日（金）～14日（金）

5. 募集人員：10名

※応募者多数の場合は選考（書類審査及び抽選）により決定します。なお、和歌山県が実施する青少年派遣事業に初めて参加する方を優先します。

6. 参加対象：

和歌山県内在住または和歌山県内に通学・通勤されている15歳以上30才以下の学生・社会人の方（但し、県外大学在学中で和歌山県内の学校を卒業された方を含む）で、所定の条件を満たす方を対象とします（但し中学生は除く）。

7. 研修プログラム：

ブルネイの学生との交流会、ホームステイ・ホストファミリーとの交流、ウル・テンブロン国立公園でのネイチャーツアー、ブルネイメタノールカンパニー、太陽光発電所等見学、県内での事前・事後ミーティング3回など。

8. 経費【参加者負担金】：18万円程度（往復の航空券、旅行傷害保険、現地でのネイチャーツアー参加費用等）

9. 応募締切：平成27年5月11日（月） 17時30分 必着

※応募書類は返却されません。

※対象者条件、応募方法、プログラム内容等詳細については、和歌山県文化国際課のホームページをご覧ください。

<<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022100/>>

※応募書類提出・問い合わせ先

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1 和歌山県庁文化国際課 国際班 小川・野見

TEL：073-441-2055

エルトゥールル号映画「海難1890」

注目

1890年（明治23年）9月16日、オスマン帝国最初の親善訪日使節団を乗せた軍艦「エルトゥールル号」が串本町檜野埼沖で台風による強風と高波により座礁し、沈没しました。この事故により500名以上の尊い命が奪われる大惨事となりましたが、事故の知らせを聞いた串本町大島の島民の懸命の救助活動により69名を救出することができました。この遭難に際し、大島島民が行った献身的な救助活動が、トルコの人々の間で語り継がれています。

この「エルトゥールル号」の日本訪問と遭難は、その後の日本とトルコの友好関係の原点とされていますが、この度、この両国の友好関係についての物語が『海難1890』という映画になります。現在撮影が行われており、1月23日（金）には、串本町の撮影現場が報道陣に公開されました。映画の一般公開は2015年12月の予定となっています。詳しくは映画の公式ホームページで！

◆『海難1890』公式ホームページ◆ <http://ertugrul-movie.com/>



田中光敏監督と主要キャスト（左からケナン・ナジェさん、内野聖陽さん、忽那汐里さん）



当時の檜野村を再現したオープンセット

後書き

ブルネイ、スペイン、トルコ、中南米、そして中国。国際交流が進むことにつれて、世界はますます身近な存在となってきているのではないのでしょうか。もちろん、和歌山県の国際交流はこれで止まることはありません。今後の動向については、本メルマガに引き続きご注目下さい。

出会いと別れの春と言われますが、万物が芽吹き、物事を始めるこの季節に、気持ちを入れ直し、自分の夢へ向かって更に一步前進しましょう。

では、また夏にお会いしましょう。



クイズの回答

④ トルコ

ヨーグルトと言えばブルガリアのイメージが強いですが、発祥の地はトルコとされています。ヨーグルトの語源もトルコ語の「yoğurt/ヨウルト」に由来しています。日本では、砂糖を入れた甘いものを食べるのがほとんどですが、トルコやブルガリアなどの国では、塩と混ぜるほうが一般的で、また、調味料として様々な料理に使用されています。

